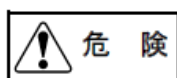


GSL-10(H)自動ドア装置取り付け



作業するときは、必ず主電源スイッチを切ること。



圧縮エアは洗浄で乾燥したものを使用すること。
さもないとエア機器が破損する恐れがある。
※他の設備と兼用する場合は圧力低下が生じないように
十分注意してください。

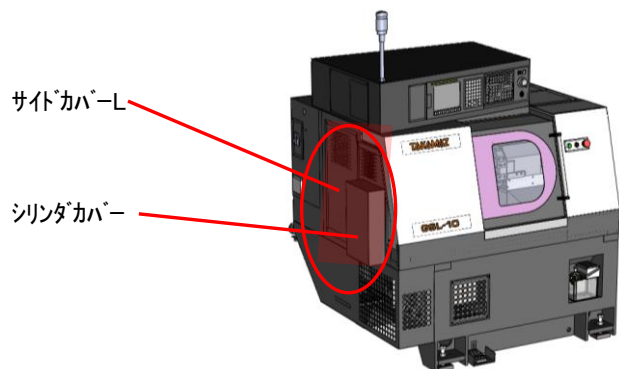
※本手順書22～28項のコンパクトフラッシュについての記載は
GSL-10(2015年1月出荷機以前)の場合のみ。(GSL-10Hは不要)

【必要工具】
レンチ【1.5】【3】【4】【5】
＋ドライバー
スパナ【19】

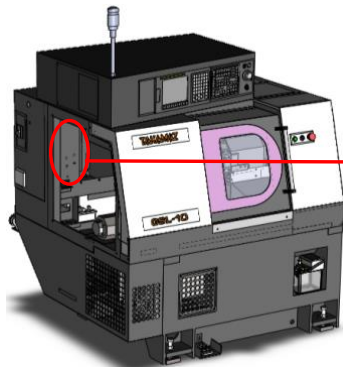
1 機械後方の電気BOXカバーと配線BOXカバーを外す。



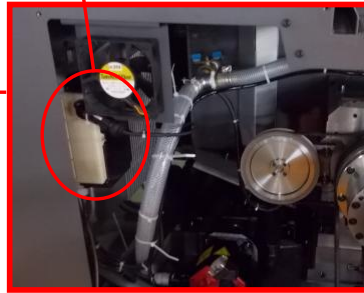
2 シリンダカバー(M6*10 5本)、サイトカバー(M6*10 4本)の順に機械左側面のカバーを外す。



3 中継BOXハーネス側が下側となる様、中継BOXを本体カバー電気BOX部内側に取り付ける。
(M5*20 4本)



中継BOX



【自動ドア】中継BOX



自動ドアハーネス

制御盤ハーネス

【自動ドア+前方エアブロー】中継BOX

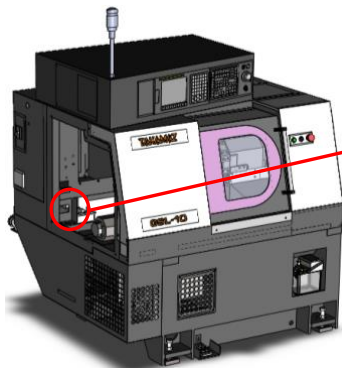


自動ドア+前方エアブロー

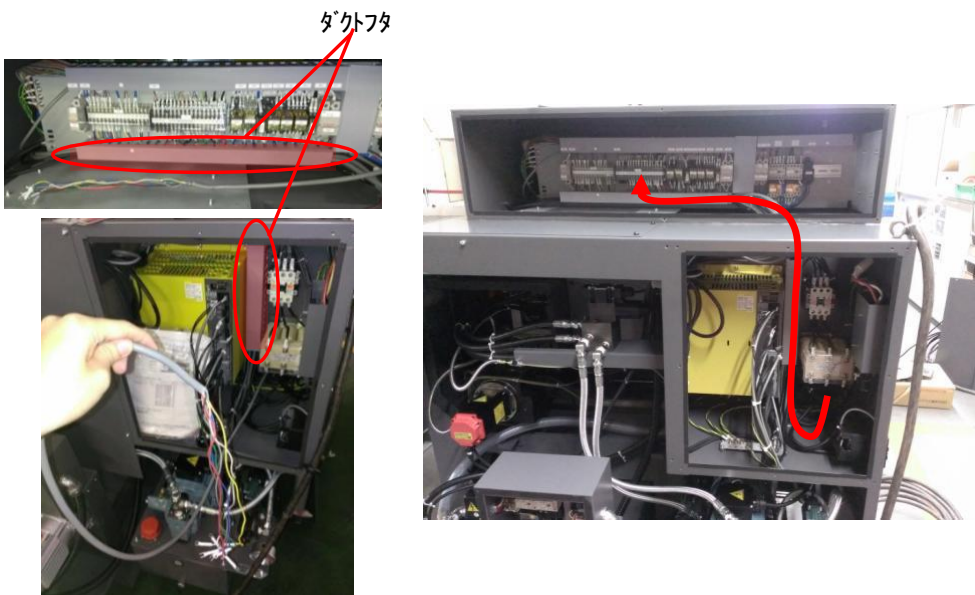
制御盤ハーネス

★ 【18項】の中継BOXにシリンダーのオートスイッチを引き込む際は、中継BOX図の赤矢印のように線を挿入する。
(挿入時はキャップコンを緩め、配線後に締め直す)

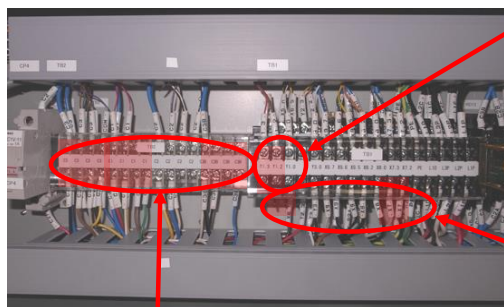
4 丸ビス2個を緩め、制御盤ハーネスを本体カバー電気BOX部内に入れ込む。



5 本体カバー電気BOX部内のダクトフタ2箇所を外し制御盤ハーネスをダクト内に這わす



6 配線BOXに通した線を配線する。
配線は7本(Y1.2・Y1.3・X5.0・C1・C2B・C3・C3B)



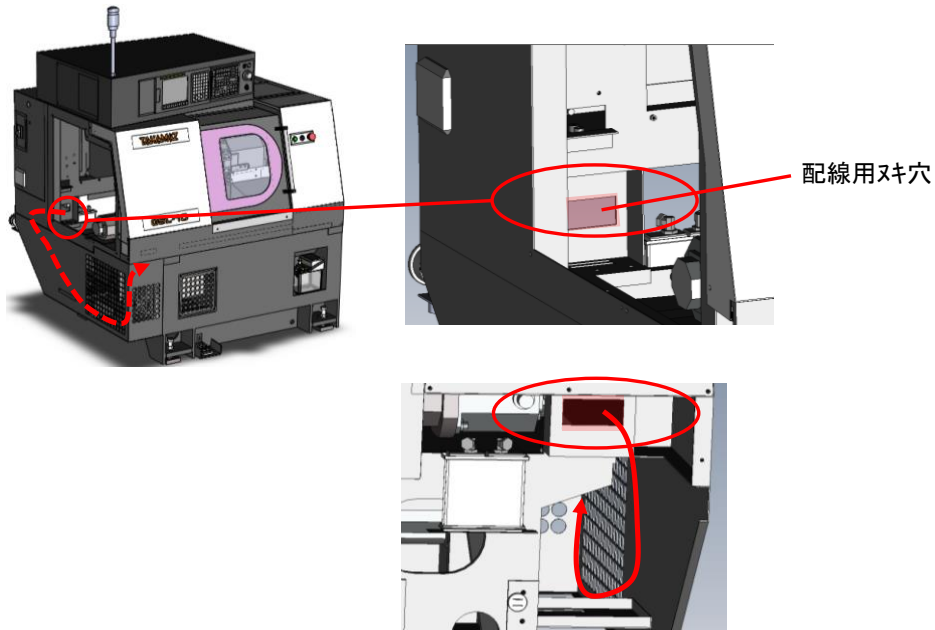
Y1.2・Y1.3はここです。
(2段になっている端子台上段)

端子台があいていない場合は、
現在、配線してあるものと
共締めで取り付けること。

X5.0・C2Bはここです。
(2段になっている端子台下段)

C1・C3・C3Bはここです。
(配線番号が同じであれば、どこへ配線しても良いです。)

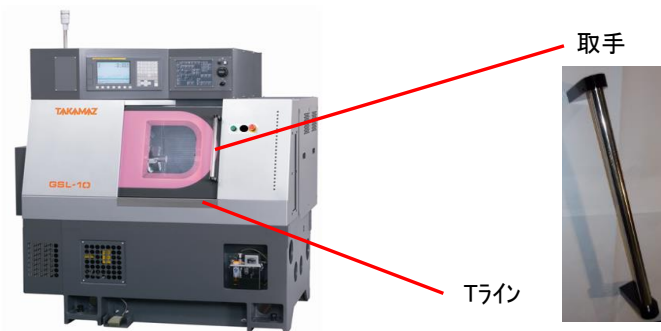
7 自動ドア(+前方エアブロー)ハーネスを配線用スキ穴に入れ、カバー内部から機械前面へ這わす。



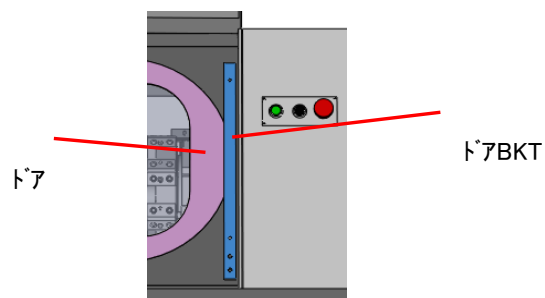
8 カバーAのドア下レール部にコンパースカバー取り付け用の穴(φ8 2箇所)を現合する。



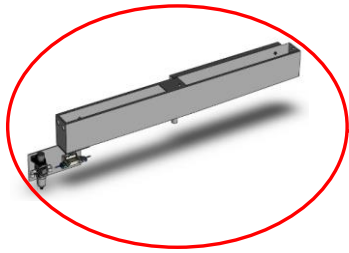
9 ドア下のカバー(Tライン)と取手を外す。
Tラインは上に引き抜くことで取外し出来ます。



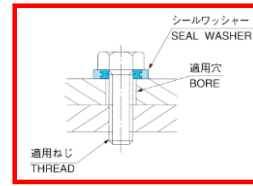
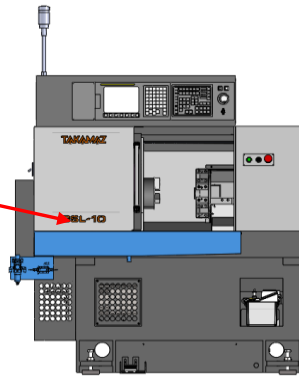
10 ドアの取手を取り付けていた部分にドアBKT(M6*12 2個)を取り付ける。



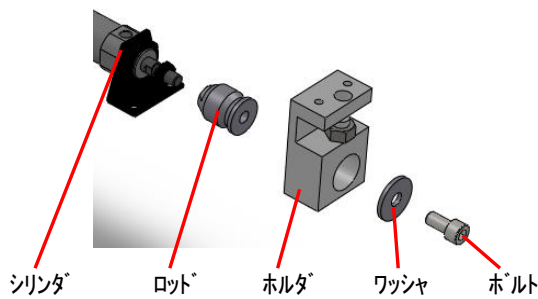
- 11 ドアを開口部が最大になる状態まで開き、自動ドアのサブASSYしたものを取り付ける。
 (M6*10 2本、M6シールワッシャ 2個)
 ※コンパースカパーとカバ-Aの取り付け部(2箇所)は油漏れ防止の為、必ずシールワッシャを使用すること。



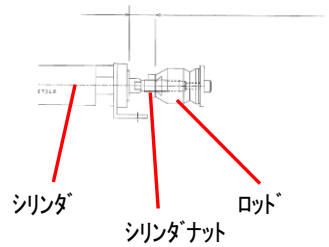
自動ドアサブASSY
 (シリンダ取り付け済)



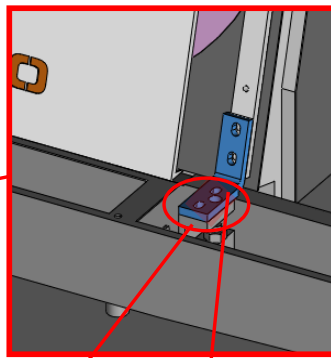
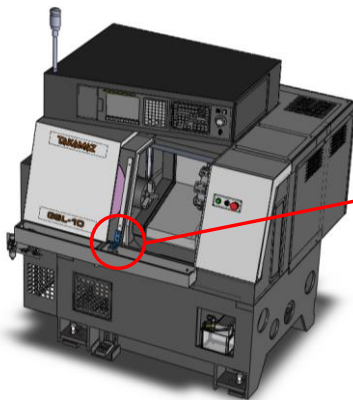
- 12 自動ドアのシリンダ先端にロッド、ホルダ、ワッシャ、ホルトの順に組み付ける。



組付け位置
 (22) 目安

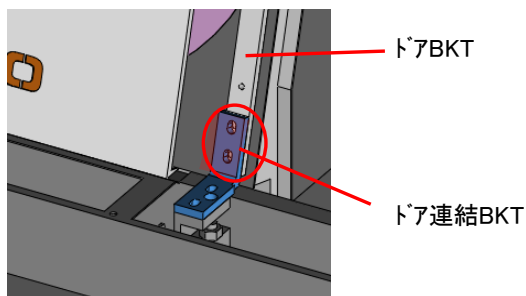


- 13 ホルダの上面にドア連結BKT(M8*20 2本、M8ワッシャ 2個)を取り付ける。



ホルダ ドア連結BKT

- 14 ドア連結BKTとドアBKTをホルトで締結する。(M8*15 2本)



- 15 エア源からのエアチューブを取付ける。
各ポートとシリンダIN/OUT($\alpha 1-\alpha 2$ 、 $\beta 1-\beta 2$)が配管されていることを確認する。

$\alpha 1$ (Aポート) $\beta 1$ (Bポート)



エア源からのチューブ Pポート(レギュレータと繋ぐ)



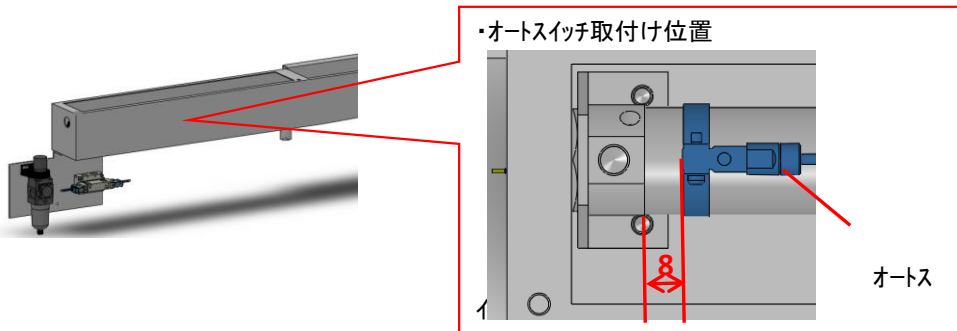
コンプレッサーベース

$\beta 2$ (シリンダ前進:ドア閉)

$\alpha 2$ (シリンダ後退:ドア開)

シリンダ

- 16 コンプレッサーカバー内のオートスイッチ位置を調整する。オートスイッチの調整目安は下図参照
(シャッター開の状態でもオートスイッチが点灯するように位置を調整)



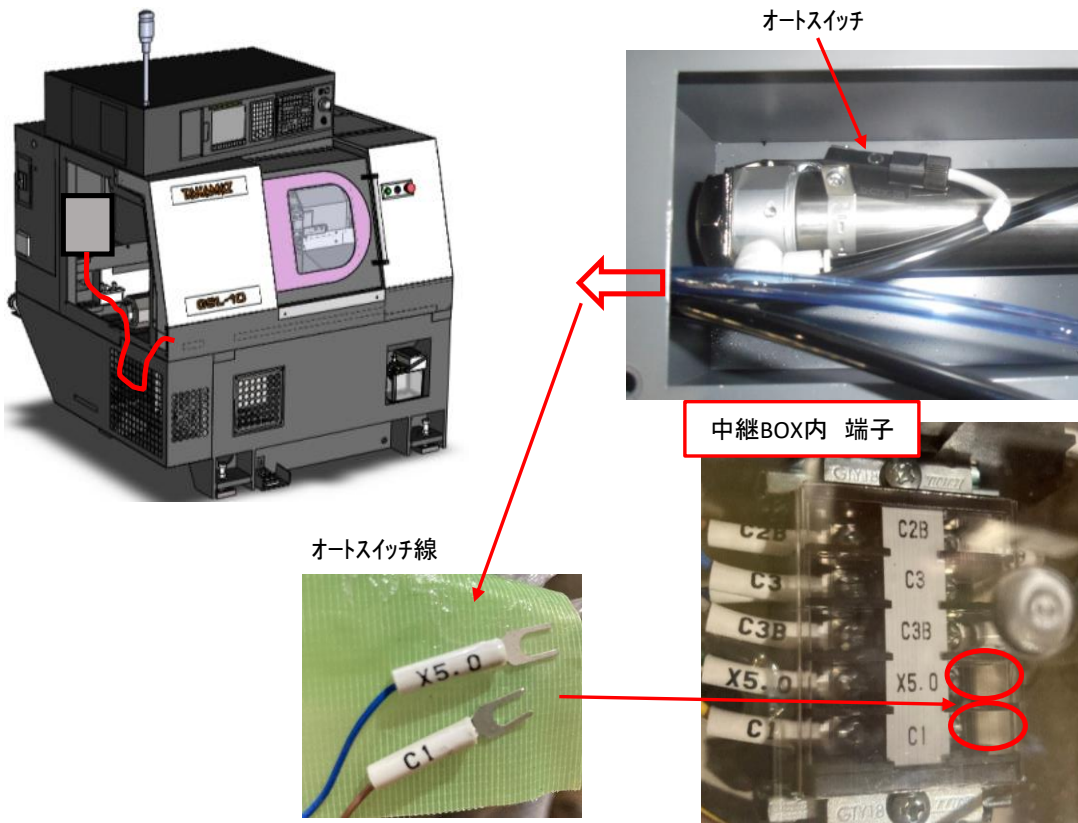
- 17 本体カバー電気BOX内側に取り付けられた中継BOXからバルブのリード線を機械前側まで持ってきて、自動ドアのバルブに取り付ける(2箇所)。



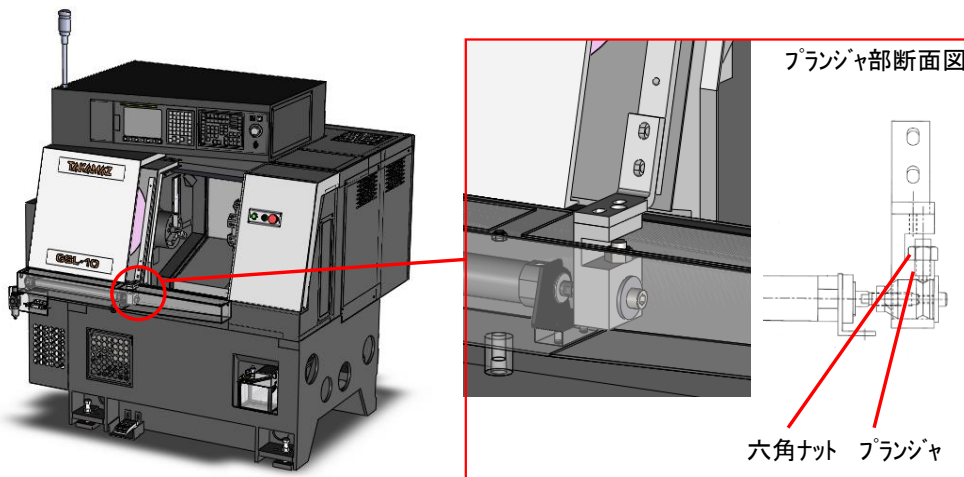
開(A)

閉(B)

18 下図経路のようにオートスイッチ線を這わせ、中継BOXまで引込み、端子台へ取付ける。
 (中継BOXへの引込口は3項 ★マーク参照)



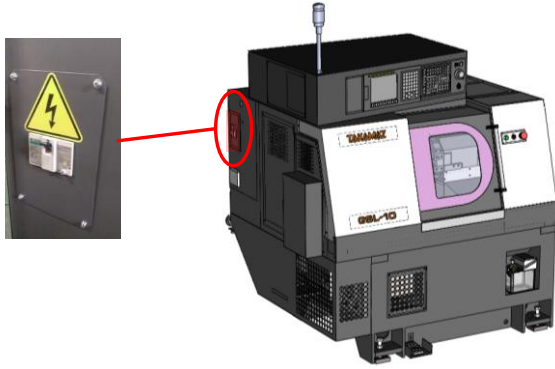
19 ホルダに取り付けられた六角ナットを緩め、フランジを底付きするまで締める。
 フランジが底付きした状態から240度分(目安)緩めた位置で六角ナットを締める。



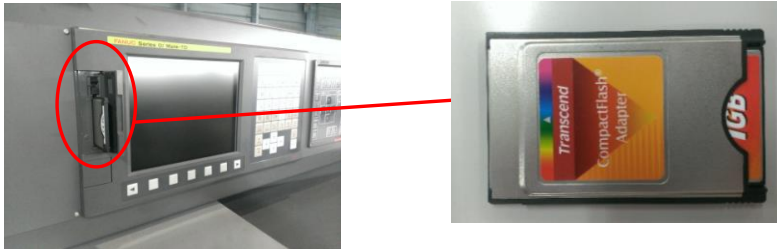
20 つまみを上に上げ時計方向に回し、レギュレータの設定圧を0.3MPaにする。
 その後つまみを下に下げる(回転しないようにロックする)。



21 機械の主電源をONします。



22 カードスロットにフラッシュメモリカードを挿入します。 ※22~28項GSL-10(2015年1月出荷機以前)の場合のみ(GSL-10Hは不要)

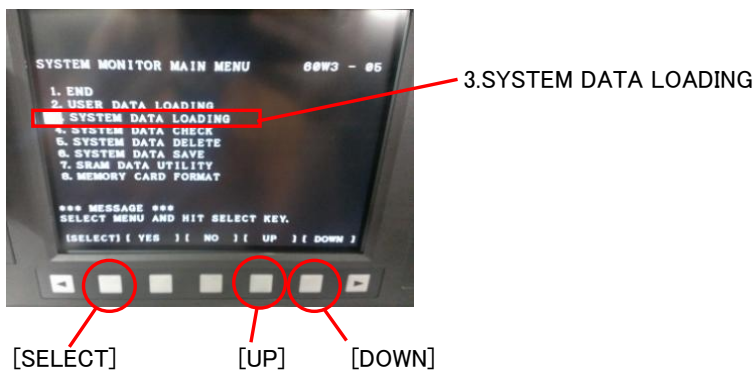


23 NC画面下のソフキー右端二つを同時に押しながら、NCの電源を投入にします。

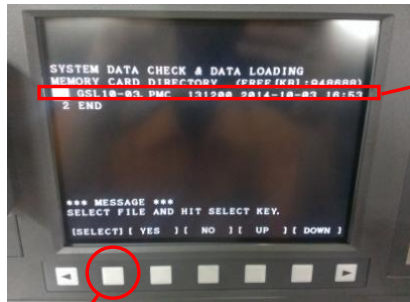


ソフキー二個同時押下の状態でNC電源ON

24 ソフキー[UP],[DOWN]により 3.SYSTEM DATA LOADINGにカーソルを合わせ、ソフキー[SELECT]を押下します。



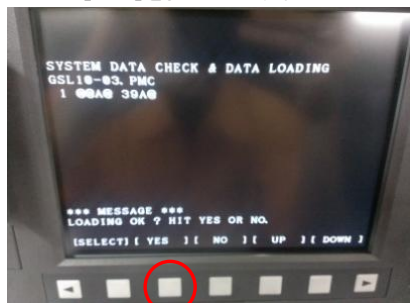
25 1.GSL10-03.PMCにカーソルがある状態で
ソフトキー[SELECT]を押下します。



1.GSL10-03.PMC

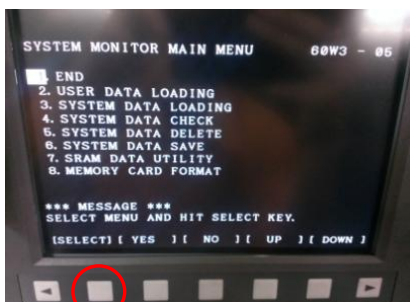
[SELECT]

26 ソフトキー[YES]を押下します。



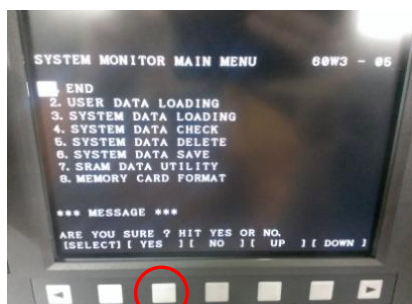
[YES]

27 カーソルを“END”に合わせてソフトキー[SELECT]を押下します。



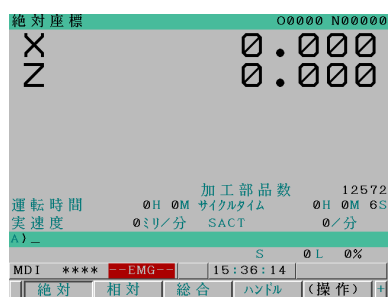
[SELECT]

28 ソフトキー[YES]を押下します。



[YES]

NCが再起動され通常の画面が表示されます。



29 キープリールを設定する。
設定方法は別紙『キープリール設定方法』を参照してください。

キープリールのアドレスは、K9.1になります。
別紙キープリール設定方法の7のアドレスですが、K0009の1番右から2番目に”1”を入力。

設定が終了しましたら、パラメータ設定不可状態に戻すこと。
(別紙、キープリール設定方法の2の逆を実施)

30 自動ドアが正常に取り付けられたかの動作確認を行う。
非常停止を解除し、操作パネル内”ATDR OP”押下でドア開することを、
”ATDR CL”でドア閉することを確認して下さい。

31 ドアの開閉がそれぞれ2.5秒(目安)になるようにスピードコントロールのメータウト側(銀色のロックナット側)を調整する。



シリンダ前進側(ドア閉)

シリンダ後退側(ドア開)

32 自動ドアが開閉した際にドアがハウンドしない程度にシリンダのアクションを調整する。
※右に回すとアクションが強く、左に回すとアクションが弱くなります。



Lレンチ(1.5)を用いて調整



ドア開側のアクション調整

ドア閉側のアクション調整

33 飛び出し防止の為、メーティン(黒色のロックナット側)のエアをスピードコントロールで調整する。



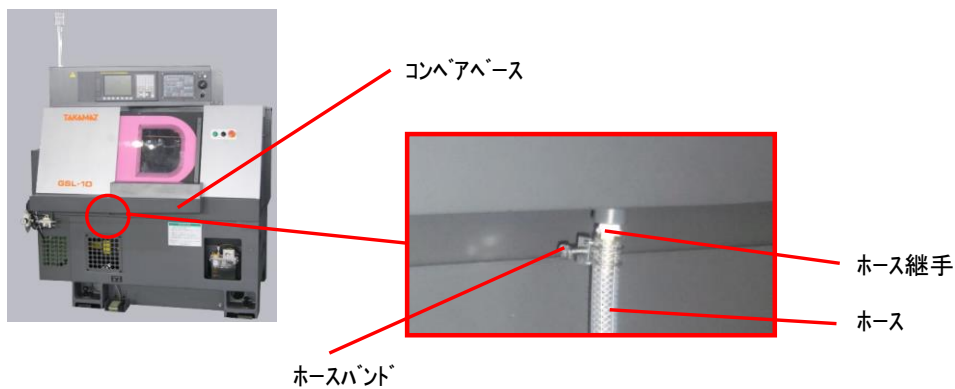
シリンダ後退側(ドア閉)

シリンダ前進側(ドア閉)

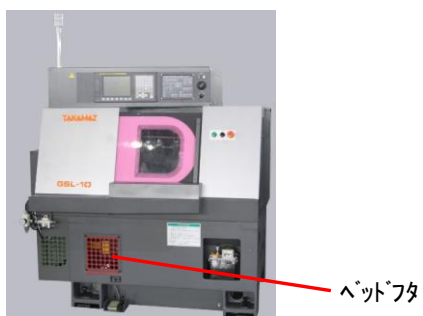
34 コンベアベースカバーにフタを取り付ける。(M6*10 3本)



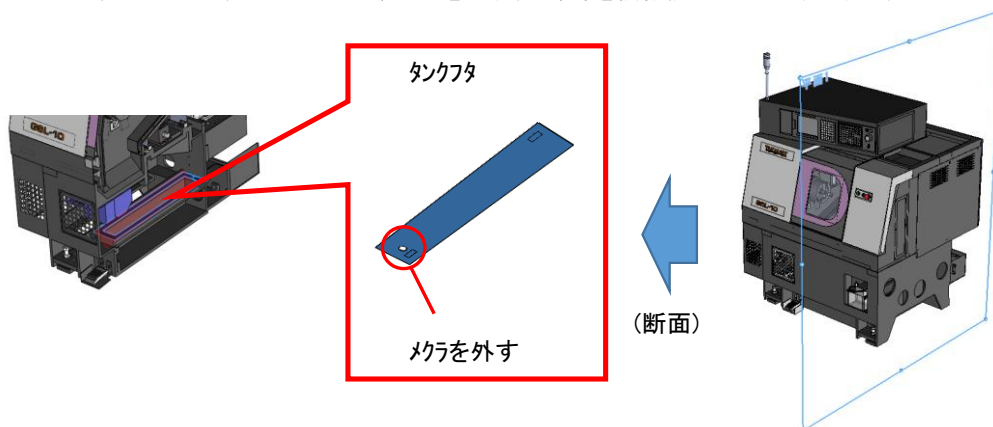
35 コンベアベース底面のソケットにホース継手、ホースを付け、ホースバンドでとめる。



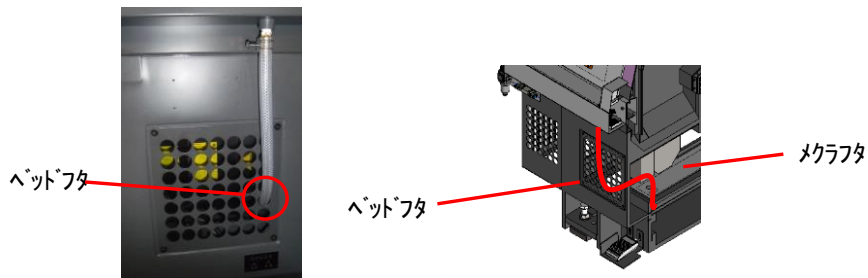
36 機械正面のベッドフタを外す。



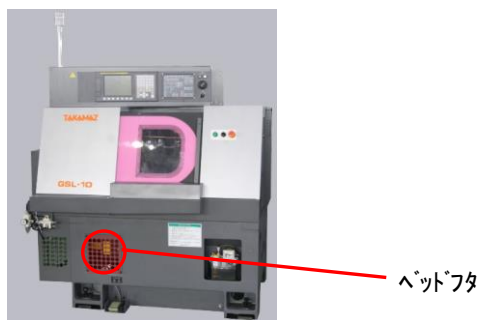
37 主軸モータ下にあるタンクフタのメクラ(ゴム)を外す。メクラ部を機械前方にくるようにする。



38 コンベアベース底に付けたホースをペットフタの穴に通し、タンクフタのメクラを外した穴に通す。



39 ペットフタを取り付ける。

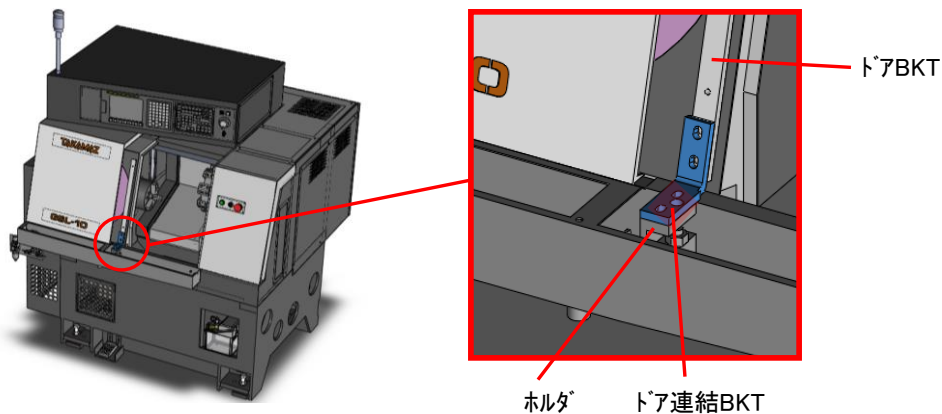


■補足事項

【ドア閉まり位置の調整方法】

部品寸法等のバラツキでドア閉まり具合がバラツク場合があります。調整が必要な場合は以下の方法で調整をお願い致します。

・調整箇所1…ホルダとドア連結BKTの取付け部、ドアBKTとドア連結BKT取付け部



・調整箇所2(調整箇所1で調整しきれない場合)…シリンダとロッド間の距離(目安22の位置)

